小　学　校

平成２３年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅲ　研究仮説と視点、研究方法

1　研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2　仮説を検証するための視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

3　研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅳ　研究内容

1　調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

2　実践研究（検証授業）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅴ　仮説検証の視点と目指す児童像・手だて、その検証授業と実践例

1　仮説検証の視点と目指す児童像・手だて・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

(1)　学級の支持的風土を培う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

(2)　集団の一員としての自覚をもたせる　・・・・・・・・・・・・・・・・１２

(3)　一人一人の充足感を高める　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

(4)　三つの視点を踏まえた集会活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

2　学級活動「(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全」における
検証授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

(1)　実践例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

(2)　各学級の課題と作戦例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

(3)　成果と変容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３

Ⅵ　研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

研究主題　よりよい集団を目指し「本気」で取り組む児童の育成
～当事者意識をもたせる学級活動の指導の工夫～

Ⅰ　研究主題設定の理由

近年、ニートや若年層の高い離職率などの社会問題が生じている背景として、情報化、少子化、核家族化などによる人間関係の希薄さや、社会性を身に付ける機会の減少などが指摘されている。「産業界の求める人材像と大学教育への期待に関するアンケート結果（平成２３年１月(社)日本経済団体連合会）」を見ると、採用に当たって「非常に重視する資質・態度、知識・能力」として、「主体性」「コミュニケーション能力」「実行力」「チームワーク・協調性」の４点が上位に挙げられている。見方を変えれば、多くの若年層はこれらの資質・態度、知識・能力が不足しているという課題があることが受け取れる。

学校教育においては、児童の生活体験の不足や人間関係の希薄化、規範意識の低下、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合って解決する力の不足などが顕著になっている。人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通した社会性の育成が不十分な状況も指摘されている。このような状況において、児童の望ましい人間関係を築く態度を育成するとともに、児童が多様な他者と協力して生活上の諸問題を解決し、よりよい生活を築いていくために必要な資質・能力を身に付けさせることが特別活動の喫緊の課題である。

児童が、よりよい生活を築いていくには、自分たちの学級や学校の生活の充実と向上を目指して体験活動や話合い活動などに主体的に取り組もうとする自主的、実践的な態度の育成が必要である。そこで、本研究では、研究主題を「よりよい集団を目指し『本気』で取り組む児童の育成」、副主題を「当事者意識をもたせる学級活動の指導の工夫」と設定し、その指導方法を明らかにする。

本研究において「よりよい集団」とは、「よりよい人間関係を築き、楽しく充実した生活をつくろうと努力する集団」であると捉えた。また、「本気」とは、「自分たちの集団を現状より、よくしようと真剣に考える気持ち」であり、「当事者意識」を「学級の問題を自らの問題として捉え、自律的に行動し、知恵を出し、問題の発見や解決に向けて行動しようとする意識」と定義した。児童一人一人が、集団の一員として当事者意識をもって活動に取り組み、活動を積み重ねることで、所属する集団に対する愛着が増し、「本気」で活動に取り組む児童が育つと考えた。

児童は、学校生活の中でクラブや委員会、異年齢グループなど様々な集団に属しているが、集団活動の基盤となるのは学級集団である。そこで、本研究では学級活動に視点を当てた。学級活動を通して目指す児童像に近付くことで、他の様々な集団の中でも身に付けた能力・資質を活用できるようになると考える。また、当事者意識をもって、よりよい解決を目指す話合い活動では、自分の意見を主張するだけでなく、自分の思いと相手の思いにどう折り合いをつけるか真剣に考えた上で集団決定することが必要である。児童の学級活動に対する意識調査を通して児童の実態を分析し、話合い活動の効果的な指導方法を明らかにすることとした。

○　目指す児童像

集団の一員として、自分たちの問題を自分のこととして捉え、よりよく解決しようとする児童

学級の問題を自分のこととして捉え、よりよく解決するには、自分の思いだけでなく学級みんなの思いに気付くことが大切である。他者を思いやる意識、他者とともに問題をよりよく解決しようとする実践力のある児童の育成を目指していく。

Ⅱ　研究構想図

小学校学習指導要領解説特別活動編（平成２０年８月）
改善の基本方針
自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりする状況が見られたりすることから、それらに関わる力を実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話合い活動、多様な異年齢の子どもたちからなる集団による活動を一層重視する。

東京都教育研究員小学校特別活動部の考え
話合い活動では、自分の意見を主張するだけでなく、自分の思いと相手の思いにどう折り合いをつけるか真剣に考えた上で集団決定し、決まったことは全員で協力して行っていくことが必要である。

児童の実態【児童の実態調査の分析から】
◆友達の意見に関心をもち、よく聞いて自分なりに理解しているが、自分が友達からどのように思われているかが分からず、不安を抱えている。
◆自分の意見に自信が無く、発言できないままに話合いが進み、参加意欲が低下している。
◆話合い活動が学級をよくしているという思いはもっているが、実践に対する不満があり、話合い活動に対する意欲が低下している面がある。

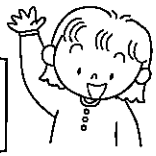
研究主題

よりよい集団を目指し「本気」で取り組む児童の育成
～当事者意識をもたせる学級活動の指導の工夫～

東京都教育研究員小学校特別活動部の考える
「当事者意識」とは・・・
学級の問題を自らの問題として捉え、自律的に行動し、知恵を出し、問題発見や問題解決に向けて行動しようとする意欲

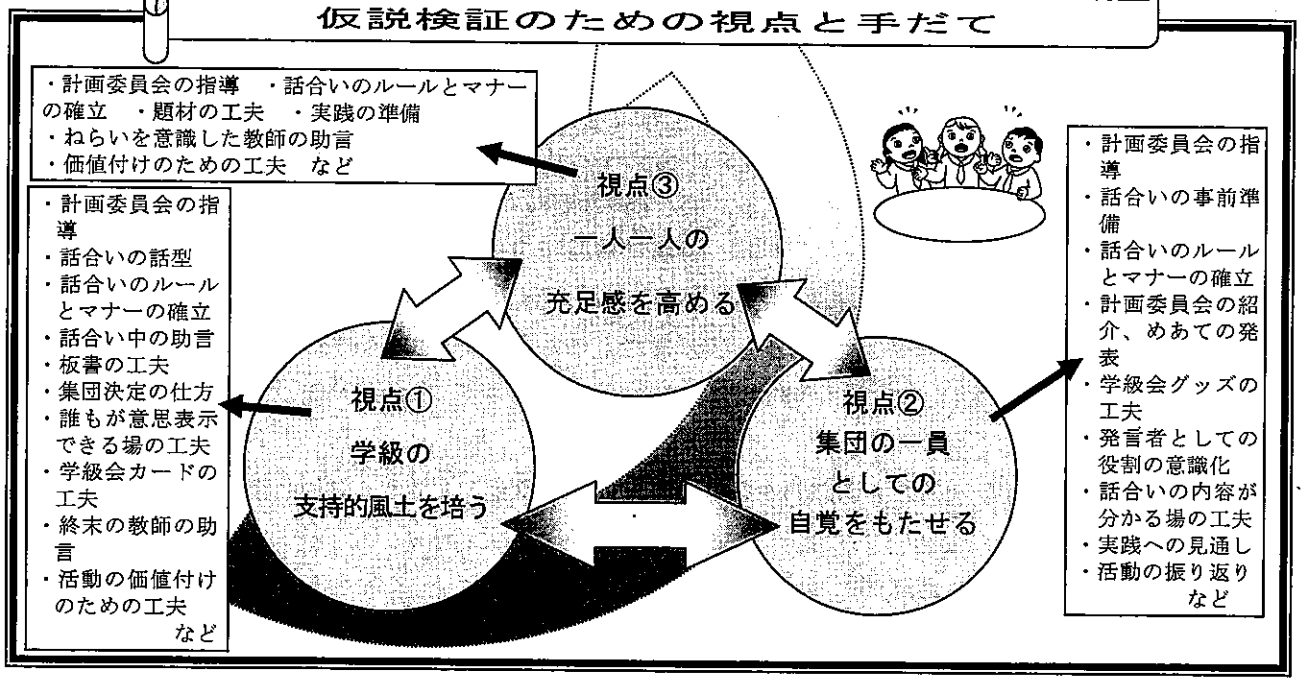
東京都教育研究員小学校特別活動部の考える
「本気」とは・・・
自分たちの集団を現状より、よくしようと真剣に考える気持ち

目指す児童像
集団の一員として、自分たちの問題を自分のこととして捉え、よりよく解決しようとする児童



研究仮説
教師が児童に集団の一員としての自覚をもたせるとともに、児童一人一人の充足感を高めるなど、当事者意識をもたせる活動を目指した指導の工夫を行うことによって、<u>よりよい集団を目指し「本気」で取り組む児童</u>が育つであろう。

仮説検証のための視点と手だて



Ⅲ　研究仮説と視点、研究方法

1　研究仮説

教師が児童に集団の一員としての自覚をもたせるとともに、児童一人一人の充足感を高めるなど、当事者意識をもたせる活動を目指した指導の工夫を行うことによって、**よりよい集団を目指し「本気」で取り組む児童**が育つであろう。

2　仮説を検証するための視点

① 学級の支持的風土を培う

本気で取り組む児童には、自分の考えを活発に発言したり、友達の考えを落ち着いて聞いたりする姿が見られる。その背景には、友達の思いを受け止めようとする気持ちや、自分の思いを受け止めてもらえるという安心感が存在している。そこで、支持的風土（互いに認め合い心のより所となる学級の雰囲気）を培うことが必要だと考えた。

② 集団の一員としての自覚をもたせる

本気で取り組む児童には、学級目標や提案理由に沿った言動や、見通しをもって活動する姿が見られる。その背景には、学級に対する所属感や、自分の役割の認識とそれを果たそうとする責任感が存在している。そこで（支持的風土を培った上で）、集団の一員としての自覚（共通の目標をもち、学級の問題を自分のこととして捉え、責任をもって役割を果たそうとする気持ち）をもたせることが必要だと考えた。

③ 一人一人の充足感を高める

本気で取り組む児童には、学級への愛着を表す言動や、活動にも前向きに取り組もうとする姿が見られる。その背景には、学級の中で自分の役割をやり遂げた思いや、学級をもっとよくしたいという気持ちが存在している。そこで、支持的風土を培い、集団の一員としての自覚をもたせ、一連の活動に満ち足りて次の意欲を喚起する感覚、すなわち充足感を高めることが必要だと考えた。

⇩

充足感をもつことで、その中の満ち足りた思いによって学級の支持的風土が更に培われることにつながる。この過程を積み重ねることで研究主題に迫ることができると考えた。

3　研究の方法

(1)　**調査研究**

① 調査方法…質問紙による。

② 調査対象…研究員所属都内公立小学校８校の３～６年生児童

(2)　**実践研究**

① 学級活動「(1)学級や学校の生活づくり」における検証授業

A　話合い活動

B　話合い活動の実践（集会活動等）

② 学級活動「(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全」における検証授業

A　話合い活動のガイダンス的な活動

B　話合い活動の課題解決に向けた活動

Ⅳ　研究内容

1　調査研究

(1) 調査目的

①　研究の仮説と視点を検証するために児童の学級活動に関する意識について実態把握を行う。

②　児童の実態を把握し、適切な指導の手だてを設定する。

(2) 調査対象

研究員の所属する都内公立小学校８校　全６０学級　回答総数１６５７人

調査対象学年	調査を実施した学級数
都内公立小学校第３学年	１２学級
都内公立小学校第４学年	１６学級
都内公立小学校第５学年	１８学級
都内公立小学校第６学年	１４学級

(3) 調査時期

平成２３年７月

(4) 調査結果

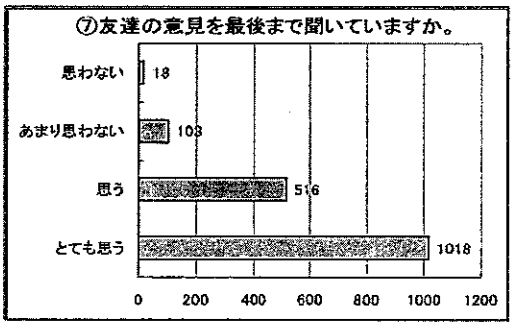
	質　問	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
①	話合いは好きですか。	はい 70.3%			いいえ 29.7%
②	このクラスがよくなるために、話合いは役に立っていると思いますか。	43.4%	39.4%	14.6%	2.7%
③	司会グループをするのが楽しみですか。	41.6%	22.2%	26.4%	9.7%
④	話合いの前に自分の意見を用意していますか。	22.2%	29.0%	39.0%	9.8%
⑤	話合いでは、言いたいことを言っていますか。	35.9%	25.2%	28.8%	10.0%
⑥	友達は自分の意見をよく聞いてくれますか。	41.4%	41.3%	13.2%	4.0%
⑦	友達の意見を最後まで聞いていますか。	61.5%	31.2%	6.2%	1.1%
⑧	友達の意見を聞いて、なるほどと思うことがありますか。	64.6%	27.5%	6.3%	1.6%
⑨	友達の意見に反対の意見を言っていますか。	29.4%	26.1%	31.4%	13.1%
⑩	話合いの中で、分からないときに分からないと言っていますか。	26.6%	24.3%	34.4%	14.8%
⑪	学級会で決まったことは、協力して行っていますか。	51.8%	35.8%	9.5%	2.9%

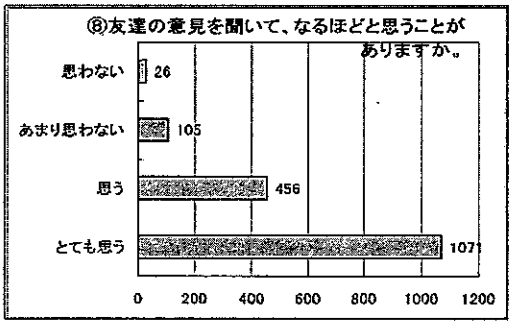
回答総数1657人

(5) 調査結果の分析

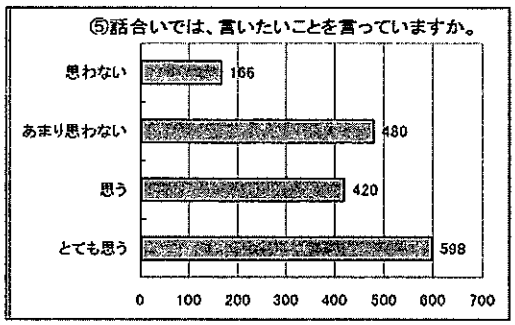
調査の結果を仮説検証の視点①、②、③に沿って考察する。

＜① 学級の支持的風土を培う＞



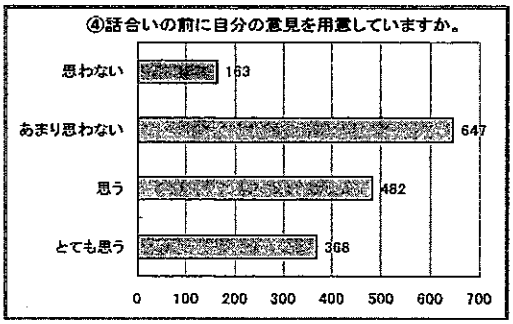


⑦「友達の意見を最後まで聞いていますか。」⑧「友達の意見を聞いて、なるほどと思うことがありますか。」の項目では、肯定的な回答（とても思う・思う）が９割を超えた。このことから、多くの児童が友達の意見に関心をもち、落ち着いて聞いており、友達の考えのよさも認めていると考えられる。一方、⑤「話合いでは、言いたいことを言っていますか。」の質問に対しては、肯定的な回答が６割程度であった。否定的な回答（あまり思わない・思わない）の理由としては、「反対意見が出ると嫌だ。」「みんなの考えが分からないから言いたくない。」「恥ずかしい。」などが、挙げられている。このことは、発言を通して自分が友達からどのように思われるかが気になり、不安を抱えていると捉えることができる。



先に挙げた⑦⑧と併せて考えてみると、多くの児童は友達の意見に関心をもち、落ち着いて聞いており、友達の考えのよさも認めていることが分かる。しかし、「反対意見が出ると嫌だ」などの不安感が大きな障壁となり、自分の考えが発言できないと思われる。さらにそのことは、人間関係の形成に影響を及ぼしているとも考えられる。これらのことから、児童の不安感を取り除き、安心して活動に取り組めるようにするためにも、互いに認め合い心のよりどころとなる学級の雰囲気、すなわち「学級の支持的風土」を培うことが必要だと考えた。

＜② 集団の一員としての自覚をもたせる＞

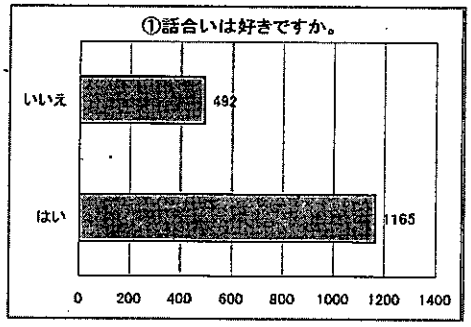


④「話合いの前に自分の意見を用意していますか。」の質問について、肯定的な回答は５割弱であった。つまり、およそ半数の児童は、事前に自分の意見を用意していないということである。また、⑩「話合いの中で、分からないときに分からないと言っていますか」の質問についても肯定的な回答は５割程度であることから、およそ半数の児童が、友達の意見に分からないことがあっても、そのままにしてしまっていると言える。前述した不安感が解消されても、自分がこの学級の一員として、役に立ちたいという思いが希薄であれば、前向きに自分なりの意見をもつことも、考えた意見を発言することもないであろう。このような話合い活動への関心の低さは、更なる所属感や責任感の低下につながると考えられる。こうした状態では、話合いの後に続く実践活動の意味や目的の

理解も浅く、活動全体が中途半端な結果に終わってしまうことも予想される。これでは学級の問題を自分のこととして捉え解決しようとするところまで至らない。

これらのことから、集団への所属感をもたせ、それに伴って責任感を高めていくためにも、共通の目標をもち、学級の問題を自分のこととして捉え、責任をもって役割を果たそうとする気持ち、すなわち「集団の一員としての自覚」をもたせることが必要だと考えた。

<③ 一人一人の充足感を高める>



①「話合いは好きですか。」という質問についてみると、否定的な回答が３割程度で、それ自体は多いとは言えない。しかし、その理由を見てみると、「時間内に決まらないから」「決まったとおりにできなかったから」など活動の結果に対する不満が挙がっている。学級の問題を自分のこととして捉えて話合いに臨んでも、結論が出なかったり、決まったところでそのとおりに実践がなされなかったりすることで、児童の話合いに対する意欲は失われていくということが分かる。

「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理のとおり、活動を通して児童に、自分の役割をやり遂げた思いや、もっとよくしたいという気持ちをもたせたい。そのためには、話合い活動によって課題解決が図られたり、その後の実践が充実したりする経験をさせるとともに、その活動における児童一人一人の努力や成長を認め合うことが必要である。これらの経験を通して、活動に満ち足りて次の意欲を喚起する感覚、すなわち「一人一人の充足感」を高めることが必要だと考えた。

2　実践研究（検証授業）

(1) 学級活動「(1)学級や学校の生活づくり」における検証授業

① 話合い活動

○　7月　4日(月)　第４学年　議題「にこにこミニオリンピックをしよう」
○ 10月 31日(月)　第５学年　議題「みんなが力を合わせるキックベースボール大会をしよう」
○ 11月 15日(火)　第５学年　議題「病院の人たちに喜んでもらえる計画を立てよう」
○ 11月 22日(火)　第５学年　議題「あいさつ運動の幹になるための計画を立てよう」

② 話合い活動の実践（集会活動等）

○ 12月　2日(金)　第３学年　集会活動「学童ようごの○○さん、□□さんに、３年間がんばってくれてありがとうの会」
○　1月 16日(月)　第３学年　集会活動「がんばりビー玉がいっぱいになってよかったね集会」

(2) 学級活動「(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全」における検証授業

① 話合い活動のガイダンス的な活動

○　4月～5月　研究員全学級で「学級活動のオリエンテーション」実施

② 話合い活動の課題解決に向けた活動

○　9月 12日(月)　第５学年　題材「話合い活動パワーアップ大作戦」
○　9月中旬　研究員全学級　題材「話合い活動パワーアップ大作戦」

Ⅴ　仮説検証の視点と目指す児童像・手だて、その検証授業と実践例

1　仮説検証の視点と目指す児童像・手だて

仮説検証の視点を受けて、以下のような児童の姿と手だてを設定し、その有効性を検証するために、検証授業を行うこととした。

【一覧表】

		①学級の支持的風土を培う	②集団の一員としての自覚をもたせる	③一人一人の充足感を高める
各視点における児童の姿		・友達の意見をしっかり聞いている。 ・自分の意見を活発に言っている。 ・安心して互いの考えに、意見を言い合っている。	・提案理由に沿って考えたり、発言したりしている。 ・見通しをもって、活動している。 ・自己の役割を自覚し、責任をもって役割を果たそうとしている。	・学級目標を大切にし、目標に近付こうとしている。 ・意欲をもち工夫して活動している。 ・振り返りで、自他のよさに気付いている。 ・次の活動に取り組む意欲をもっている。
事前の指導の手だて	司会などの手だて	○計画委員会の指導 ○話合いのシミュレーション(話型)	○計画委員会の指導	○計画委員会の指導
	学級全体の手だて	○話合いのルールとマナーの確立 ○話合いの事前準備	○話合いのルールとマナーの確立 ○話合いの事前準備	○話合いのルールとマナーの確立 ○議題の工夫 ○実践の準備
話合いの指導の手だて	司会などの手だて	○話合い中の助言 ○板書の工夫	○計画委員会の紹介、めあての発表 ○学級会グッズの工夫	○ねらいを意識した教師の助言
	学級全体の手だて	○話合いのルールとマナーの確立 ○集団決定の仕方 ○誰もが意思表示できる場の工夫 ○学級会カードの工夫 ○終末の教師の助言	○話合いのルールとマナーの確立 ○発言者としての役割の意識化 ○話合いの内容が分かる場の工夫 ○実践への見通しをもたせる工夫 ○学級会カードの工夫	○話合いのルールとマナーの確立 ○学級会カードの工夫
実践・事後の指導の手だて	実践・振り返りの手だて	○価値付けのための工夫	○活動の振り返りの実施	○価値付けのための工夫

(1) 学級の支持的風土を培う

【検証授業】 「みんなが力を合わせるキックベースボール大会をしよう」（５年生）

【提案理由】
チームで協力してきずなを深め、みんなが仲良く力を合わせることができるようにしたいから。

【話合いの柱】
①みんなが楽しめるルールを決める。
②チームを決める。
③役割分担を決める。

本授業では、視点①「学級の支持的風土を培う」に重点を置き、検証した。

【活動の概要】

「みんなが仲よく力を合わせるクラス」にするために、２学期の学級活動で行いたいことを考え、朝の会などを活用して学級全員で本議題を選んだ。しかし、児童の中にはキックベースボールのルールや友達との技術の差に不安感をもつ児童もいた。そこで、不安に思っていることをアンケートにとり、その結果を基に、計画委員会で話合いの柱を設定した。また、「話合いの柱①」に向けては、みんなが意見を言えるように、学級会カードに事前に自分の意見を書いておくことを計画委員会で決め、学級の児童に伝えた。

【学級目標】
い 一歩ずつ前に進む
ち 力を合わせて
く くじけずがんばる
み みんななかよく笑顔あふれるクラス

話合い活動では、事前に準備した考えを生かし、学級目標を意識した意見や提案理由に沿った意見が出された。また、反対意見を出すときには、「そのルールだと～が心配です。」という言い方を指導した。意見がなかなか出ない際には班ごとの話合いを取り入れ、「話合いの柱③」の役割分担では、男女の意見が反映できるよう、分担は男女混合になっていた方がよいという意見が出され、この意見が、活動において男女協力してチーム決めやルール説明を行うことにつながった。

話合い活動で決定したキックベースボール大会の準備は休み時間などを使い、計画委員会が中心となって分担・調整を自主的に進めた。また、チームのきずなが深まるように、チームごとに練習したり協力を高める工夫を行ったりした。

活動後の振り返りでは、「キックベースボールは苦手だったけれど、クラスの新ルールがあったので楽しかった。」「最初はルールがよく分からなかったけれど、○○くんたちが教えてくれて分かるようになった。」「チームの友達と『ドンマイ！』や『ナイス！』などの声を掛け合っているのがよかった。」など、学級の支持的風土が高まった様子が見られた。

		仮説検証の視点と手だて ①学級の支持的風土を培う
事前の指導の手だて	司会などの手だて	**○計画委員会の指導** ・計画委員会の輪番制　・みんなでの議題選び **・事前アンケートの実施とその周知（事例①）** **○話合いのシミュレーション（話型）** ・質問や意見を発言者ではなく、全体へ投げかけること。 ・どの意見も大切にすること、**少数意見を大切にすることの確認（事例②）** ・出る意見を想定して、進め方を考えておくこと。 **・進め方の台本の作成（集会A）**
	学級全体の手だて	**○話合いのルールとマナーの確立** ・支持的風土をこわす言動をやめさせること、支持的風土を高める言動を褒めること。 **・反対意見の言い方を考えること…「話合い活動パワーアップ大作戦」の実践（検証①）** ・提案理由に沿った意見を出すこと。　・友達の言いたかったことを代弁すること。 ・相手を納得させる意見を出すこと。　・同意見のとき、うなずきやハンドサインなどで反応すること。 ・相手を思いやる話型や言葉遣いをさせること。 **○話合いの事前準備** ・議題決定後、帰りの会等で共有すること。 ・話合いの柱に対する自分の意見をもつための時間設定 ・提案理由を意識させること。 **・学級会カードの活用（検証②）**
話合いの指導の手だて	司会などの手だて	**○話合い中の助言** ・取り上げられていない意見がある時や、提案理由からそれた話合いになっている時に助言すること。 **○板書の工夫（事例③）** ・採用されなかった意見を消さないこと。　・決定意見の明確化

話合いの指導の手だて	学級全体の手だて	○話合いのルールとマナーの確立 ・確認事項の実践　・めあてと提案理由の意識化 ○集団決定の仕方 ・安易な多数決の回避と少数意見の尊重　・折り合いを付けること。 ・いろいろな集団決定の仕方からの選択　**・多数決のルール確認（事例④）** ○誰もが意思表示できる場の工夫 **・少人数での話合いの活用（検証③）** **・ハンドサイン、名札、意思表示カードの活用（事例⑤）** ○学級会カードの工夫 ・友達のよかったところの記入 ○終末の教師の助言 ・話合いの場面の記録・称賛（思いやる・ゆずる・誰が言ったかではなく意見の内容で判断する・困っている友達を助ける・友達の失敗を許し受容する等） ・提案理由の意識化
実践・事後の指導の手だて	実践・振り返りの手だて	○価値付けのための工夫 **・友達と認め合う場の設定（検証④）** **・活動の見取りとよかったところの称賛（事例⑥）**

【仮説検証の視点と手だて及び児童の変容】

検証①反対意見の言い方を考えること

反対意見を出す時に、「○○の考えだと～が心配です。」と言うように指導した。

２学期当初に行った話合い活動「話合い活動パワーアップ作戦」（P21 参照）で決めたことを実践させた。

話合い活動パワーアップ大作戦
反対意見は
言い方に気をつけて言うべし！

自分の意見が否定されたという気持ちが緩和され、発言がしやすくなった。

検証②学級会カードの活用

話合いの前に、児童が書いた意見に対して教師がコメントを書き、自信をもたせ、発言を促した。

話合いの柱①
みんなが楽しめるルールを決める

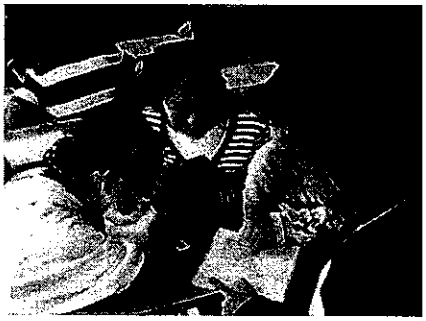
（自分の考え）
・ボールを目の前に置いておいて、そこからける

教師のコメント
なるほど！他の人は考えていないかも。すごい。ぜひ、この意見を言ってみよう。

自分の意見に自信がもてず、発言をためらっている児童に、発言を促すきっかけとなった。

検証③少人数での話合いの活用

意見がなかなか出ない時に、近くの友達と意見交流の時間を設けた。



小集団の場で友達の意見を聞き、安心して意見を言うことができた。

検証④友達と認め合う場の設定

集会後に書いた振り返りカードの内容を紹介、掲示した。

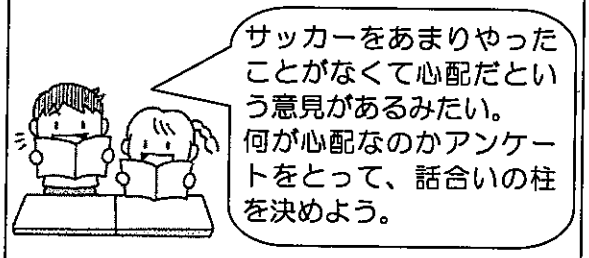
友達に認められたという思いをもつことができ、自己肯定感と帰属意識が高まった。

支持的風土を培う～実践例～　*検証授業以外で実践した事例

【事前】

事例①事前アンケートの実施とその周知

事前に柱についてのアンケートをとり、それを基に話合い計画を立てるよう指導した。



計画委員会は見通しをもって話合いを進めることができた。

事例②少数意見を大切にすること

計画委員会には事前に、安易に多数決を行わず、十分に話し合った後で、共通点を見出し一つの意見にまとめたり（合体案）、決定されなかったことは別の機会に行うよう提案したりすることを指導した。

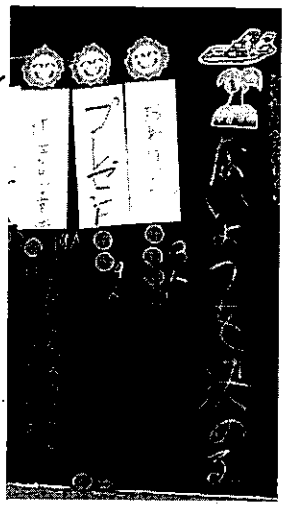
輪番で司会をする際には、どの意見も大切にしようとする意識が高まった。

【話合い】

事例③板書の工夫

話合いの流れを分かりやすく見せるために意見を整理して色分けさせたり、決定した意見にマークを付けさせたりした。また、出された意見をカードに書いて、決定後も出された意見は全て残しておくように指導した。

話合いの結果、採用されなかった意見のカードを少し下げて、今、どの意見が残っていて、どれが話題になっているか分かるように、工夫しました。



話し合ったことを分かりやすく整理するために、決まった意見には、おひさまマークを付けました。心配意見は青丸マークの下に書きました。

板書が見やすくなったことで、何について話し合っているのかが分かり、意欲的に話合いに参加できるようになった。また、自分の出した意見がずっと黒板に残されていることで、どの意見も受容されていることを感じて意見を言いやすくなった。

事例④多数決のルール確認

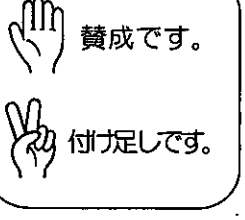
十分な話合いをした後、多数決をする前に、
「１票でも多い意見に決まること」
「決まったことには協力すること」
以上の２点について全員で確認するよう、司会に指導した。

〈司会〉
たくさんの意見が出されました。
ここで、多数決をとりたいと思いますが、多数決だと
「１票でも多い意見に決まります。」
「自分のやりたいものでなくても、決まったことには協力してもらいます。」
意見はありませんか。
それでは、多数決をとってもいいですか。

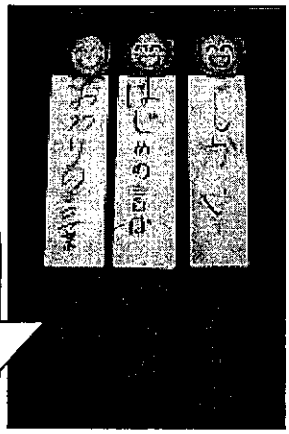
決まったことに対して、気持ちよく取り組む姿勢が見られた。

事例⑤ハンドサイン、名札、意思表示カードの活用

発言がなかなかできない児童も意思表示をできるように、賛成や付け足しなどのハンドサインやネームマグネット等を活用した。



自分の希望する仕事にネームマグネットを表示



友達の意見をよく聞き、意思表示ができるようになった。

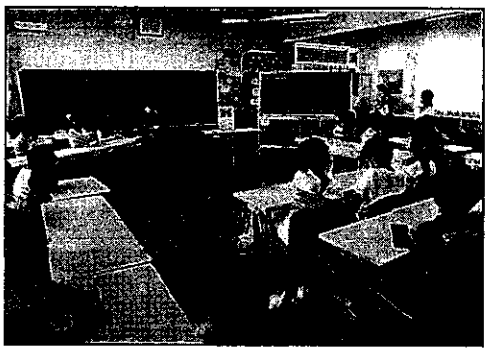
【実践・事後】

事例⑥活動の見取りとよかったところの称賛

話し合ったことが実践のどこに結び付いているかを明確に意識させる助言を行った。

多数決で自分の意見に決まらなかった人も、気持ちよく協力できたから、全員の力を合わせた取組になりましたね！

前回の学級会でのＡさんの意見のおかげで、こんなに楽しい集会ができましたね！



話合い活動では、実践を見通した意見が増えたり、活動に対する意欲が高まったりした。

(2) 集団の一員としての自覚をもたせる

【検証授業】 「病院の人たちに喜んでもらえる計画を立てよう」（５年生）

【提案理由】
１学期に音楽リハビリに参加して、お年寄りの方たちにとても喜んでもらえた。もう一度喜んでもらい、もっと元気になってもらいたいから。

【話合いの柱】
①活動の内容を決めよう。
②係分担を決めよう。

本授業では、視点②「集団の一員としての自覚をもたせる」に重点を置き、検証を行った。

【学級目標】
ぜったいにあきらめない！
どんどんチャレンジ！
めざせ！最高の５年１組

【活動の概要】
学級の目標を踏まえ、２学期に取り上げたい学級会の議題についてアンケート調査したところ、１学期に本校隣にある高齢者施設を訪問した経験から、今度は自分たちで、高齢者の方々に何か喜んでもらえることを計画したいという意見がたくさん出た。そこで、計画委員会が中心になって、学級全体で本議題を選んだ。病院の担当の方には事前に担任が連絡を入れ、受入れの確認をとった。

「話合いの柱①」では、具体的な活動内容についての意見が活発に出された。その中で、集団で物事を決める際には、反対意見だけを言うのではなくそれに代わる案を提案し、話合いをまとめていく見通しをもって意見を言い合うことの大切さを指導した。十分な話合いの後、多数決により、学級全員の合唱・メッセージを入れたビデオの作成と、一人一人が高齢者の方々にメッセージカードを書くことが決まった。「話合いの柱②」で決定した内容に沿って、合唱の選曲から練習計画、便箋の準備など、係に分かれて準備を進めた。

ビデオ作成担当の係児童は、合唱曲の選曲や練習計画を考えるに当たって、音楽専科の教師に相談に行き、音楽室の使用や歌唱指導もきちんと依頼し、音楽専科教師の協力を得ることができた。他の児童もみな担当の係の役割を責任もってやり遂げ、とても意欲的に活動に取り組んだ。その結果、学級全員が「これなら病院の高齢者の方々に喜んでもらえる。」と納得できるビデオとメッセージカードができ上がった。ビデオとメッセージカードは学級全員で病院を訪問し、職員の方に手渡した。

活動後の振り返りでは、児童一人一人がそれぞれの役割をやり遂げ、学級みんなの力を合わすことができた達成感が表現されていた。

		仮説検証の視点と手だて ②集団の一員としての自覚をもたせる
事前の指導の手だて	司会などの手だて	○計画委員会の指導 ・計画委員会の活動計画の作成（検証①） ・事前の打合せ（事例②） ・提案理由の練り上げ
	学級全体の手だて	○話合いのルールとマナーの確立 ・学級活動のオリエンテーション（４月）…学級会の進め方（事例①） ・話合い活動パワーアップ大作戦（９月）…話合い活動における自分たちの課題と改善 ○話合いの事前準備 ・学級会コーナー（学級会の予定・議題・話合いの柱・話合いのめあて等の掲示、議題の例示、等）の設置 ・前時までの活動の学級全体への周知 ・学級会カードの活用（事例③）
話合いの指導の手だて	司会などの手だて	○計画委員会の紹介、めあての発表 ・計画委員会の自己紹介とめあての発表（事例④） ・自己の役割についてのめあて ・計画委員会の振り返りと引き継ぎ ・計画委員会へのねぎらい ○学級会グッズの工夫（事例⑤） ・決定マーク、賛成・反対マーク、タイマー、役割の札、時計（ストップウォッチ）、短冊等
	学級全体の手だて	○話合いのルールとマナーの確立 ・自治的活動の範囲を超えたときの助言（事例⑥） ・反対する時の代案の提案（検証③） ○発言者としての役割の意識付け ・提案理由の意識付け（検証②） ・分からないことへの質問 ・理由を加えた意見の発表（事例⑦）

話合いの指導の手だ	学級全体の手だて	・自分の経験を生かした意見を言うこと。 ・司会を助ける意見 ・自分の考えと異なると感じたこと。 ・複数の意見を生かす方法を考えた上での集団決定 ○話合いの内容が分かる場の工夫 ・少人数での話合いの活用（事例⑧） ○学級会カードの工夫 ・めあてを振り返る欄の作成（検証④） ・友達のよかったところの記入 ○実践への見通しをもたせる工夫 ・全員での役割分担（事例⑨） ・他の役割への理解 ・実践への見通しをもった意見の発言
実践・事後の指導の手だて	実践・振り返りの手だて	○実践への見通しをもたせる工夫 ・自治的範囲内での活動　・提案理由の共有化　・実践活動における全員での役割分担 ・他の役割の理解　・事前の準備時間の確保（集会B） ○活動の振り返りの実施 ・役割を果たしたときの称賛 ・よかったところ、改善点などの振り返りカードへの記入（事例⑩） ・失敗体験を次回へ生かすこと　・他の教員（学年、クラブ、委員会担当）からの情報収集

【仮説検証の視点と手だて及び児童の変容】

検証①活動計画の作成

計画委員会の活動予定表を事前に配布した。

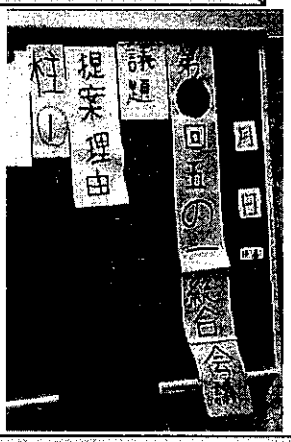
学級会1週間の流れ

金まで…議題集め
月…議題決定・提案理由の確認
　役割分担
火…議題決定・柱の確認
水…柱の決定・全員に知らせる
金…学級会

計画委員会が見通しをもって、自主的に話合いに向けての準備に取り組むことができた。

検証②提案理由の意識付け

黒板や学級会カードに、提案理由やめあてを書き出しておいた。



常に全員が提案理由・めあてを意識して自分の意見をもつことができた。

検証③反対する時の代案の提案

反対意見を出す時には、代案を出すように指導した。

～の方がみんなに喜んでもらえるので、…より～の方がよいと思います。

課題を前向きに捉え、集団決定を図ろうとする姿が見られた。

検証④めあてを振り返る欄の作成

学級会カードに、自分自身のめあてについての反省を記述させた。

(児童の記入内容から)
・いつもはなかなか発言できないけれど、今回はめあてどおり発言できたのでよかった。
・意見をどんどん出すだけではなくて、待つときは待つことに気を付けて次はまたやりたい。
・司会のサポートがあまりできなくて、先生に頼ってしまった。本当はできたはずだと思う。
・黒板記録でみんなに見やすい書き方ができるようにがんばった。自分でもうまくできたと思う。

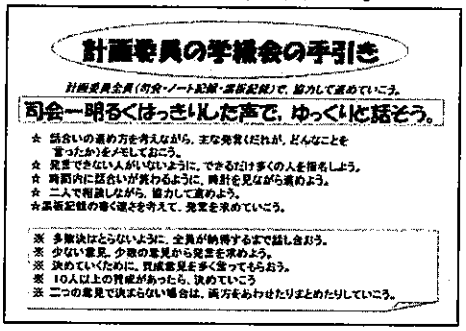
自分の役割や責任を意識するとともに次の活動に向けた自分の課題を自覚し、活動への意欲につながった。

集団の一員としての自覚をもたせる～実践例～　＊検証授業以外で実践した事例

【事前】

事例①学級活動のオリエンテーション(4月)

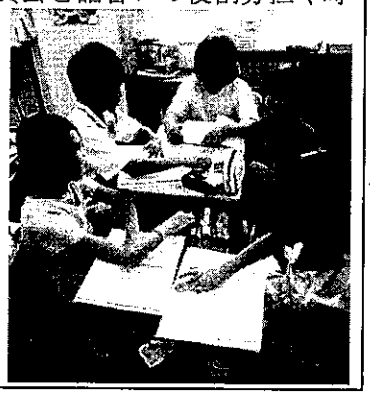
４月に、学級活動のオリエンテーションを行い、学級での共通理解を図った。



話合い活動の見通しがもて、話合い活動に進んで取り組もうとする児童が増えた。

事例②事前の打合せ

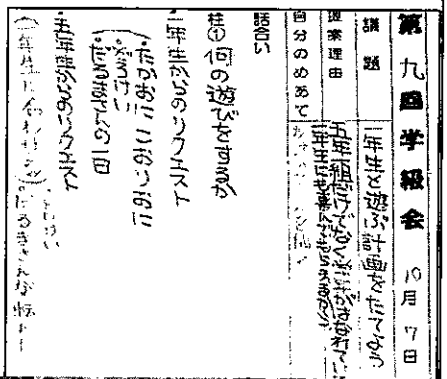
事前に計画委員会と話合いの役割分担や時間配分などについて打合せをした。



自分の役割を意識して話合いを進めようとする姿が見られた。

事例③学級会カードの活用

議題や提案理由、話合いの柱等を計画委員会があらかじめ記入した学級会カードを事前に配布。学級児童には内容をよく読み、学級会までに自分の考えをカードに記入しておくことを指導した。

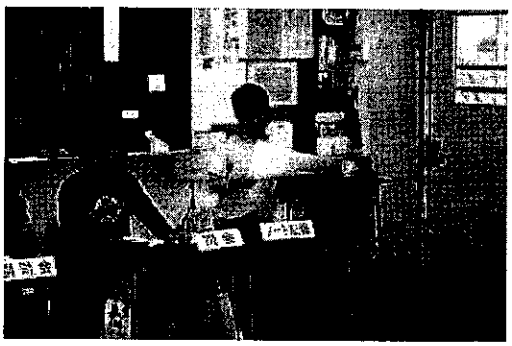


事前に提案理由に沿った自分の考えをもつことで、話合いに参加する意識が高まり、多くの意見が出るようになった。

【話合い】

事例④計画委員会の自己紹介とめあての発表

話合い活動の始めに計画委員会の紹介をし、役割についてのめあてを発表させた。



事例⑤学級会グッズの工夫

出された意見は短冊に書く。決定した項目には印を付ける。タイマーを使用し、あらかじめ決めておいた予定時間が全体に分かるように進行状況をマークさせた。

話合いの柱マーク

タイマーマーク（話合いの柱の上に貼り、話合いがどこまで進んでいるかを示す。）

決定マーク

計画委員会が自分の役割を自覚し、意欲的に話合いの進行に取り組む姿が見られるようになった。

事例⑥話合いが混乱したときの助言

話合いの論点が明らかにずれてきたり、話合いの方向が児童に任せることができない条件に触れたりしたときには、その場で適宜指導助言した（自治的活動の範囲）。

<みなさんに任せることができない条件>
- 友達を傷つけてしまうかもしれないこと。
- 時間割りに関すること。
- 学校の決まりに関わること。
- お金や食べ物、安全に関わること。
- 学校の施設を使うこと。 など

提案理由に戻って考える・意見を整理するなどの助言を繰り返し行っていくうちに、自分たちの力で話し合い、納得して集団決定ができるようになってきた。

事例⑦理由を加えた意見の発表

発言する時に、自分の考えをみんなに分かってもらうためにはその理由も伝えることが大切だということを指導した。

ただ発言するだけでなく、それまでの経験に基づいて考えたり、実践への見通しをもって考えたりするなど、よりよい決定に向けて発言できる児童が増えた。

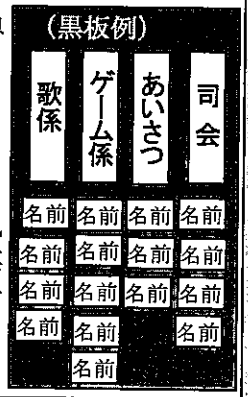
事例⑧少人数での話合いの活用

話合いが停滞した時、意見をまとめる必要がある時などには、少人数での相談タイムを設定した。

新しい意見が出やすくなったり、一人一人の意見を全体に反映させたりできた。

事例⑨全員での役割をもたせる工夫

話し合ったことを実践に移していく時に、学級全員で役割を分担した。

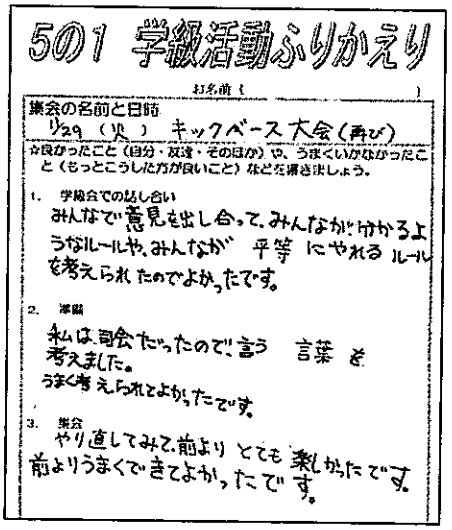


話合いでは積極的に意見が言えなかった児童も、実践の場で自分から進んで活躍する場面をつくることができた。

【実践・事後】

事例⑩よかったところ、改善点などの振り返りカードへの記入

一連の活動を通しての振り返りを行い、全員で共有した（掲示・教師による紹介など）。



5の1 学級活動ふりかえり

お名前（　　）

集会の名前と日時
1/29（火）キックベース大会(再び)

☆良かったこと（自分・友達・そのほか）や、うまくいかなかったこと（もっとこうした方が良いこと）などを書き出しよう。

1. 学級会での話し合い
みんなで意見を出し合って、みんなが分かるようなルールや、みんなが平等にやれるルールを考えられたのでよかったです。

2. 準備
私は司会だったので言う言葉を考えました。
うまく考えられてよかったです。

3. 集会
やり直してみて、前よりとても楽しかったです。
前よりうまくできてよかったです。

成功体験を積み重ねていくだけでなく、更によりよいものにするために改善点や課題について話し合うことで、学級全員が集団の一員としての自覚をもち、学級活動に参加するようになった。

(3)　一人一人の充足感を高める

【検証授業】　「あいさつ運動の幹になるための計画を立てよう」（５年生）

【提案理由】
あいさつをすると、した方もされた方も気持ちがよいので、自分たちが手本となって、あいさつがいっぱいの学校にしたいから。

【話合いの柱】
①活動内容を決める。
②期間・分担を決める。

本授業では、視点③「一人一人の充足感を高める」に重点を置き、検証を行った。

【活動の概要】
本議題設定の理由は、挨拶ができていない児童が多くなってきたことが校内でも問題になってきたため、後期開始を境に教師から児童に呼び掛けて挨拶運動を「プロジェクトＡ」として取り組んできたことが発端である。実際行ってみると、児童は挨拶をし合うことの気持ちよさを実感したり、教職員が挨拶の後に添えてくれる一言で充足感を感じたりしていた。また、他の教職員から褒められたことを、担任を通して学級全体で共有していた。これらのことを通して、自分たちが変わってきたことを感じている児童もいた。このような経験から、学級での取組を学校全体に広げていきたいという気持ちが芽生え、本時の議題とすることに決定した。

【学級目標】
下級生の手本となり、
学校のためになる。
「学校の幹」

本学級では４月当初の話合いで学級目標を右上のように決めた。日常生活のほか、こどもまつり、運動会などの学校行事で、「学校の幹になろう」を合言葉として、目標に向かって活動することや振り返る機会を設けてきた。そこで、本活動の事前準備でも、学級目標を踏まえて議題や提案理由の設定を行った。特に提案理由には、下級生の手本になるという実感をもたせ、充足感を高めていくために「自分たちが手本となって」という文言を加えた。本時で決まったことを実践する中で、自分たちが下級生の手本となっているという実感を味わわせることができた。

		③一人一人の充足感を高める
事前の指導の手だて	司会などの手だて	○計画委員会の指導 ・教師と共に行う、計画委員会の運営（検証①） ・計画委員会の引継ぎ（事例①） ・前回の課題を掲示し、意識できるようにすること。 ・計画委員会の中で、課題に対する対応策を話し合うこと。 ・学級目標を意識した提案理由の設定（事例②）
	学級全体の手だて	○議題の工夫 ・困難なもの（頑張れば乗り越えられるもの）に挑戦させること。 ○話合いのルールとマナーの確立 ・自分たちの力で話し合って決定する経験の積み重ね ・小グループで話し合う経験の積み重ね（検証②） ○実践の準備 ・どのような活動の工夫ができるか考えさせること。 ・以前の活動の反省点を生かすよう助言すること。
話合いの指導の手だて	司会などの手だて	○ねらいを意識した教師の助言 ・記録ノート（教師）を活用した発言者や内容の記録 ・提案理由に沿って決定している場面の称賛 ・計画委員会へのねぎらい（事例③） ・他者による称賛の場の設定（検証④）

話合いの指導の手だて	学級全体の手だて	○ねらいを意識した教師の助言 ・記録ノート（教師）を活用した発言者や内容の記録 ・問いかけ助言の実施（事例④） ・提案理由に沿って意見が言えた児童の称賛（検証③） ・相手の意見を大事にしながらも反対（心配）意見が言えていた児童への称賛 ・反対（心配）意見を解決するアイデアを出せた児童を称賛 ・他者からの称賛の場を設定（検証④）
実践・事後の手だて	実践・振り返りの手だて	○価値付けのための工夫 ・学級目標達成の視覚化（事例⑤） ・活動の記録（事例⑥） ・自分の成長に気付ける場の設定（事例⑦） ・話合いと実践を関連付けた終末の助言（事例⑧） ・児童の思いを交流する場の設定（事例⑨）・他者からの称賛の場を設定する（集会C） ・活動の振り返り（集会D）

【仮説検証の視点と手だて及び児童の変容】

検証①教師と共に行う計画委員会の運営

学級会の一週間前から休み時間、給食時間などを利用して打ち合わせ、助言を行った。

活動内容の決め方について、提案理由や学級目標に沿って決めていけばよいことに気付いた。本時においても、自信をもって話合いを進めることができたことで達成感を味わえた。

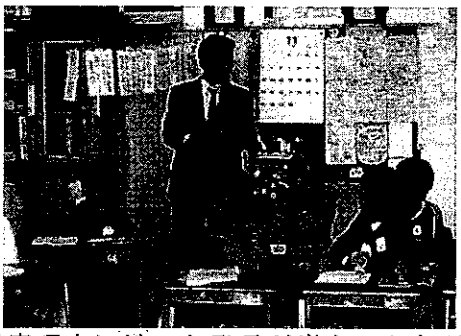
検証②小グループで話し合う経験の積み重ね

普段の授業から、全体ではなかなか発言できない児童が発言しやすいように小グループで話し合う場を設定した。

話合い活動の場でも、自分の考えを伝えようとする姿が見られた。

検証③提案理由に沿って意見が言えた児童の称賛

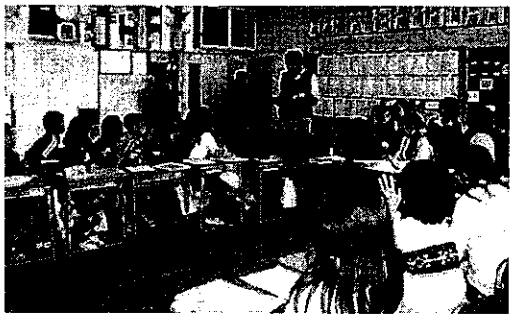
提案理由に沿って発言できた児童を記録し、終末の助言で称賛した。



提案理由に沿った発言が増えみんなが納得できるような集団決定ができるようになった。

検証④他者からの称賛の場の設定

友達や担任以外の教師などから称賛される場面を設定する。本時では、参観してくださった先生方から話合い活動について称賛してもらった。



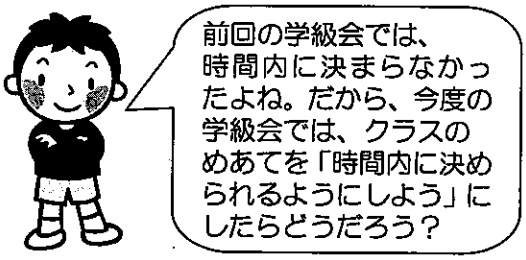
他教員から褒められたことを喜び、次の活動への意欲が高まった。

一人一人の充足感を高める～実践例～　＊検証授業以外で実践した事例

【事前】

事例①計画委員会の引継ぎ

輪番制で行っている計画委員が、自分たちの役割を終えた後、よかった点や反省点、今後の改善策などを学級全体に伝える場を設定した（朝の会や放課後など）。



前回の課題やよかった点が明確になり、次の活動で児童に意識化されるようになった。

事例②学級目標を意識した提案理由の設定

学級目標を意識して提案理由を練り上げるように助言した。

提案理由をしっかりと設定することによって、話合いが議題からそれずに進むようになり、よりよい集団決定ができるようになった。

【話合い】

事例③計画委員会へのねぎらい

・教師は、事前の計画・準備から本時までを通して、計画委員会のよさを把握し、終末の助言で具体的に名前を挙げて称賛した。

学級の中で自分の役割をやり遂げた思いと、学級を更によくしたいという気持ちの高まりが、振り返りカードの記入から把握できた。

事例④問いかけ助言の実施

考えのよさに気付かせたい時に、「○○の意見は、よかったですね。どうしてだか分かりますか。」などと学級全体に問いかけた。

自分たちの力で答えを見出すことの積み重ねが、自信につながり、これからも自分たちで課題を解決していこうとする姿につながった。

【実践・事後】

事例⑤学級目標達成の視覚化

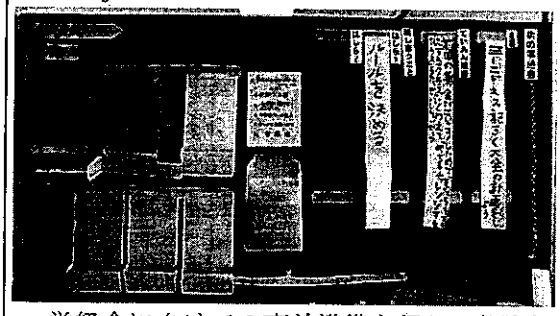
帰りの会や行事後、学級目標を振り返る場を設けた。学級目標に近付けたと児童が評価した際にはビー玉を貯める（ビー玉貯金）、おもちゃのコインを貯める、星のマークを貼る等、学級目標の達成度が児童の目で見て分かるよう提示方法を工夫した。

ビー玉などが増えていくのが分かるので、達成感を実感することができた。

事例⑥活動の記録

○学級活動コーナーの設置

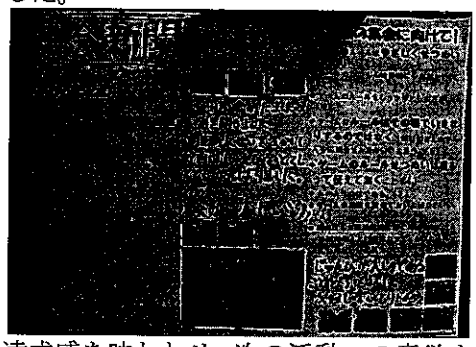
活動の流れを示し、計画委員が自分たちの力で活動できるようにした。それとともに、次の学級会の議題や提案理由、話合いの柱などを周知した。



学級会に向けての事前準備を促し、意欲を高めることができた。

○集会新聞による活動の価値付け

集会活動の様子や児童から挙げられたよかったこと、改善したいことを新聞形式で掲示した。

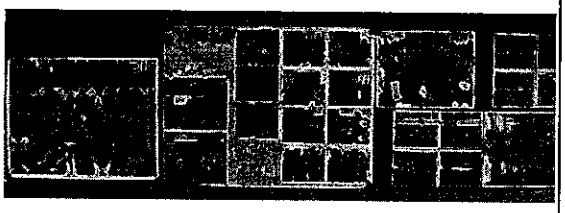


達成感を味わわせ、次の活動への意欲を喚起することができた。

事例⑦自分の成長に気付ける場の設定

○成功体験の積み重ねの掲示

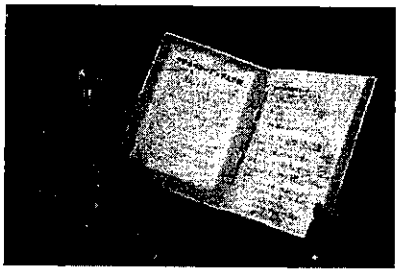
学級会や集会、行事などの様子について、写真や振り返りカードなどを掲示した。



活動の成果を視覚化することで、協力して得た達成感を再確認することができた。

○「活動の記録」の活用

学級会カード、振り返りカードを「活動の記録」としてまとめ、今までの活動を振り返られるようにした。



児童は自分の成長を感じ、自己を更に高めたいという思いをもつことができた。

事例⑧話合いと実践を関連付けた終末の助言

話し合って決めたことが実践のどの場で生かされたのか、終末の助言で関連付けた。

自分たちで創り上げた活動という達成感を味わうことができた。

事例⑨児童の思いを交流する場の設定

集会や行事などの前後に、他教科などとの関連を図って、自分の思いを作文や詩で表現する活動を行った。出来上がった作品を学級内で交流した。

友達の思いに気付き、集団としての仲間意識を高めることができた。

(4)　三つの視点を踏まえた集会活動

「学童ようごの○○さんと□□さんに、3年間がんばってくれてありがとうの会をしよう」（３年生）

【提案理由】
学童ようごの○○さんと□□さんは、いつも私たちを見守ってくれているので、喜んでもらえるような会を開いて、ありがとうの気持ちを伝えたいから。

【話合いの柱】
①やることを決める
②分たんを決める

【活動の概要】
本議題は、身近でお世話になっている学童擁護の方への思いに気付き、感謝の会をしたいとの声が挙がってきたことにより選定した。学童擁護の方の気持ちになって考え、喜んでもらえるような集会を開いて感謝の気持ちを伝えることが、学級目標の合い言葉「笑顔」につながることを意識させて、提案理由を深めさせた。
話合い活動では、やりたいことが数多く出されたが、「この中から選ぶのに大切なのは提案理由だ」との意見が児童から出て、「学童擁護さんに関係するクイズを入れた方がよい」「このゲームは、みんなは楽しめるが、学童擁護さんは楽しめない」といった意見を基に決定していった。以前の集会での経験を生かし、「感謝の気持ちを手紙に書いて渡したい。」「教室を飾ると更によいと思う。」といった意見も出された。
事前の準備では、「学童擁護さんが喜んでくれると、自分たちもうれしい」との思いをもって、学童擁護さんにアンケートをとる姿や、ルールを工夫する姿も見られた。
実践では、「学童擁護さんに喜んでもらえる会にする」との共通の目標をもち、自分の役割に一生懸命取り組み、「このクラスでよかった。」「またこういう会をしたい。」と充足感を味わっていた。

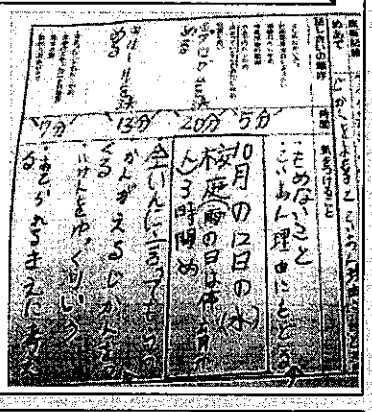
【学級目標】
合い言葉
ゆめ　きぼう　えがお
◆自分で考え、話し合ってかい決するクラス
◆みんなで元気に仲良く遊ぶクラス
◆時間を守り、けじめをつけるクラス
◆下の学年に優しくするクラス

【仮説検証の視点と手だて及び児童の変容】

～学級の支持的風土を培うために～

集会Ａ：進め方の台本の作成

事前の計画委員会で時間配分や気を付けること等を確認し、自信をもって話合いを進められるよう「進め方台本」を作成させた。



安心して話合いを進めることができ、計画委員が自信をもつことができた。

～集団の一員としての自覚をもたせるために～

集会Ｂ：事前の準備時間の確保

同じ役割の児童同士で準備する時間をとった。

自分たちの活動をよりよくしようとするために、他の役割の児童と助言し合う姿も見られた。

～一人一人の充足感を高めるために～

集会Ｃ：他者からの称賛の場の設定

集会の終わりに学童擁護の方から集会の感想を話してもらった。

このような会を開いてくれて、とてもうれしいです。みなさんの気持ちを感じました。３年生がこれだけのことができることに驚きました。

学童擁護の方から感謝の言葉をもらい、自分たちで計画し実践したことに達成感を味わうことができた。

～一人一人の充足感を高めるために～

集会Ｄ：活動の振り返り

一人一人が集会の前にめあてをもち、そのめあてに対してよかったところや改善点を書くようにした。

目標を達成できて、うれしかったです。学童ようごさんが「うれしい」と言ってくれて、みんなが笑顔でよかったです。これからもだれかのためにがんばって、笑顔になりたいです。

よかったところを次へ生かし、更によくしようと次の活動への意欲が高まった。

2　学級活動「(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全」における検証授業
～学級活動(2)を活用した見直しの場の設定　「話合い活動パワーアップ大作戦」～

学級活動(2)は、集団での話合い活動を通して、個人の目標を自己決定し、個人で実践する児童の自主的、実践的な活動を特質としている。

本研究では、研究主題を「よりよい集団を目指し「本気」で取り組む児童の育成～当事者意識をもたせる学級活動の指導の工夫～」とし、三つの視点を設定して話合い活動を中心に研究に取り組んだ。しかし、話合いの質は、児童の発達段階のみならず現学年までの経験の差が大きく関係している実態がある。また、ある程度話合いの質が高まっていても、学年半ばになると話合いがパターン化してくる実態もある。そこで、２学期当初に、検証の視点①「学級の支持的風土を培う」及び②「集団の一員としての自覚をもたせる」の手だての一つとして、「話合い活動のガイダンス的な活動」「話合い活動の課題解決に向けた活動」を学級活動(2)として取り入れることにした。

学級活動(1)と(2)では、「それぞれの特質を生かし、相互の関連を十分考慮し、かつ、弾力的な指導ができるよう配慮する」ことが、学習指導要領解説に示されている。そこで、１学期初めの「学級活動オリエンテーション」では、学級活動(1)と(2)の違いや、話合いの仕方について指導した。そして、学級での話合い活動に慣れてきた二学期に「話合い活動パワーアップ大作戦」という題材を設定し、「これまでの話合い活動における学級の課題は何か、自分の課題は何か」について、考える機会を設けた。その際、１学期に実施した「児童の学級活動に関する意識調査」の結果を児童に示し、学級の友達の思いにも目を向けさせた。この活動では、学級全体の課題を解決する方法を「話合い活動パワーアップ大作戦」とし、この作戦の遂行に向けて各自のめあてを立てることとした。本活動を通して、児童が互いの思いに気付くとともに、これまで以上に当事者意識をもって話合い活動に取り組むようになるのではないかと考え、各学級で実践した。

(1)　実践例

題材名　「話合い活動パワーアップ大作戦」

① ねらい　話合い活動における学級の課題に気付き、解決しようとする意欲を高める。

② 本時の展開　　T…教師　　A～E…児童

	学習内容	学習活動	・指導上の留意点☆評価
導入	1　これまでの話合い活動における自己の姿を振り返る。	○　意識調査の結果から、学級の話合い活動の課題に気付く。 ①学級をよくするために、話合い活動が役に立っていると思うか。 ②言いたいことを言っているか。 ③分からない時に分からないと言えるか。 ④反対意見を言っているか。 ⑤自分の意見を事前に用意しているか。	・1学期に行った「児童の学級活動に関する意識調査」結果から、項目を五つ取り上げて掲示する。 ☆学級の課題に気付いたか。
	○年○組の話合いをパワーアップさせる作戦を考えよう。		
展開	2　課題1「自分の意見が言えない。」を解決する作戦を考える。	○課題1「自分の意見が言えない」について考える。 ・意見をもてるようにするために、やらなければならないことを整理する。 T：次の学級会は、来週の金曜日です。自分の意見を準備しておきましょう。 C：なんの…？ T：まず、「議題は何か」「提案理由は何か」「柱は何か」が分からなければ用意のしようもありませんね。計画委員と分けて準備することを考えましょう。	・板書には、計画委員のすることと、そのほかの全員がすることを分けて示す。

展開		・計画委員が準備した学級会カード（議題・提案理由・柱）があるとして、ある・なしの状況下でどちらが意見をもてるか考えさせる。 ・課題１に対する作戦名を考える。 作戦１：「自信をもって意見を言うために、事前に意見を準備しよう！」	・意識調査の結果を基に作戦を考える。
	３　課題２「反対意見が言いにくい」を解決する作戦を考える。	○課題２「反対意見が言いにくい」について考える。 Ｔ：「話合いは、いろいろな意見を出し合い、みんなで一番よいと思われる案を作り上げることが目的ですね。そのためには、反対意見も必要です。でも、あなたが意見を言ったときに、他の誰かがあなたのことを責めるような言い方をしたらどう思いますか。」 Ｃ：「悲しい。」 Ｃ：「次からは、意見を言いたくなくなる。」 Ｔ：「では、次の言い方を聞いて考えてみましょう。クラス遊びを決めている場面です。」 Ａ：椅子取りゲームがいいと思います。 Ｂ：反対です。 Ｃ：Ａさんに反対です。 Ｄ：椅子取りゲームには反対です。理由は… Ｅ：椅子取りゲームだと～ Ｔ：「今のＢ・Ｃ・Ｄさんの言い方を聞いて、どう思いましたか？」 ・反対意見を大切にすることはどんなことか考える。 ・課題２に対する作戦名を考える。 作戦２：「『反対』を『心配』という言い方に変えて、理由もきちんと言おう！」	☆反対意見がどのように重要なのか気付いたか。 ・自分がＡだったらどう思うか、考えさせる。
	４　課題３「時間内に決められない」を解決する作戦を考える。	○課題３「時間内に決められない」について考える。 ・多数決のシミュレーションを行い、多数決のよい点と問題点を考える。 Ｃ：多数決のよさ：多くの人の意見が採用される。時間内に決めることができる。 Ｃ：多数決の問題点：十分議論せずに多数決で決めると、反対した人の気持ちや少数意見が大切にされない。 ・課題３に対する作戦名を考える。 作戦３：「上手に多数決を使おう！」	・議論を尽くした上の多数決はよいことを確認する。
終末	５　三つの作戦を確認して、これからの話合い活動で自分はどのようにがんばるかを考える。	○それぞれの作戦について、自分はどのようにがんばるか考える（自己決定）。 ・パワーアップ大作戦シートに作戦名と各自のめあてを書く。	☆学級の課題解決のために、自分がやるべきことに気付くことができたか。
	６　「自分のめあて」を発表し聞き合う。	・数名の児童に発表させ、聞き合う。	
	７　教師の話	・作戦を確認し、次の話合い活動への意欲につながる話をする。	

(2) 各学級の課題と作戦例

・「自分の意見が言えない」という課題→「自信をもって意見を言うために、事前に意見を準備しよう！」作戦
・「反対意見が言いにくい」という課題→「『反対』を『心配』という言い方に変えて、理由もきちんと言おう！」作戦
・「時間内に決められない」という課題→「上手に多数決を使おう！」作戦
・「多数の意見に流されやすい」という課題→「少数意見に耳を傾けよう！」作戦
・「司会になるのが不安」という課題→「事前に打合せをしよう！」作戦
・「司会のとき、うまく話合いを進める自信がない」という課題→「司会以外の人たちが司会を優しくサポートしよう！」作戦
・「質問に対してうまく答えられない」という課題→「一人に対して質問するのではなく、全体に投げかけよう」作戦

(3) 成果と変容

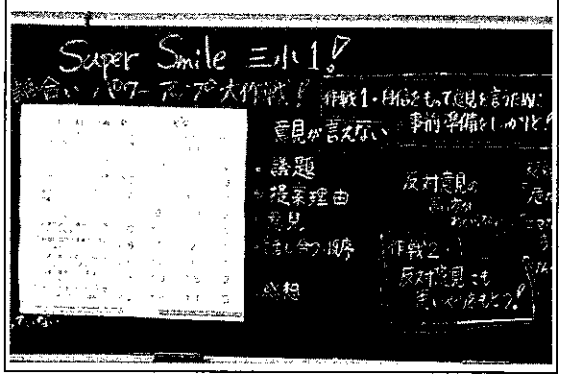
１学期末に行った「児童の学級活動に関する意識調査」を基に、各学級で本活動を実践した。

意識調査の結果からは、各学級での話合いにおける課題を確認し合うことができた。「話合いの前に自分の意見を準備していない。」「進め方が分からない。」「反対意見の言い方が分からない。」「『反対』という言葉がきつい感じがする。」「時間内に決まらない。」等の課題に対してみんなで決めた作戦と、それに対する自分のめあてを「パワーアップ大作戦」カードにまとめた。それを学級活動ファイルの表紙裏などに貼り、目に付くようにした。話合いの前に「パワーアップ大作戦」カードを読むように伝えることで、多くの児童が、めあてを意識して話合い活動に参加できるようになった。その結果、話合いで発言する児童が増えてきている。

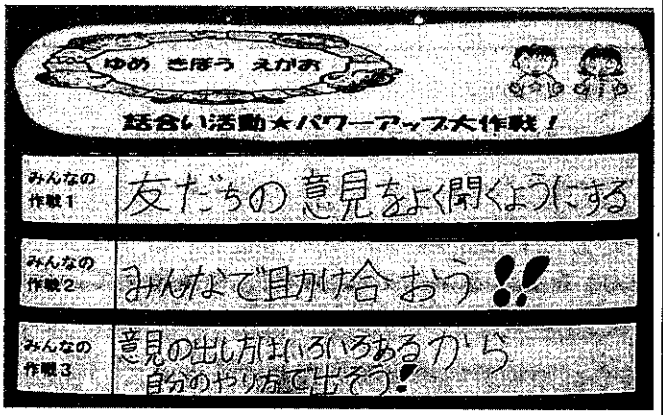
また、どの学級でも、反対意見を恐れて発言しなかったり、反対意見の言い方が分からなかったりする児童が多いことも分かった。教師が、「話合いをする上で反対意見は大切な役割をもっていること」を伝えながらも、言葉としてはきつくなりがちな「反対」という言葉を使わずに「心配」等その議題やその場の状況に応じた言葉に変える作戦を取り入れた。その結果、心配に対する解決策として意見も出しやすくなった。また、みんなの思いを大切にしようという雰囲気も生まれてきた。

以上の変容から、学期の初め又は必要な時期に、学級会での話合いについて全員で振り返る活動は、児童が当事者意識をもって話合いに参加する上で、有効な取組だと言える。

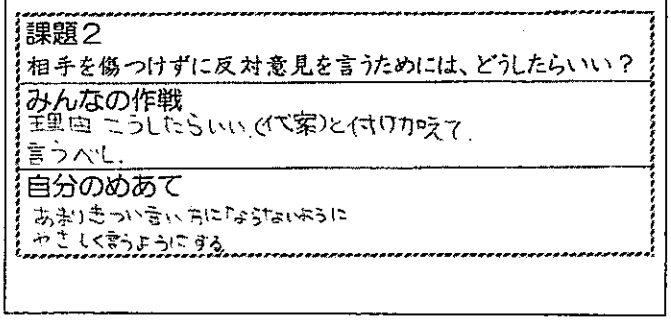
板書



学級の作戦



個人の作戦



学級会カード振り返りから

Ⅵ　研究の成果と課題

研究を進めるに当たって、まず、「よりよい集団」、「本気」、「当事者意識」について共通理解し、部会として定義したことは、研究の方向性に一本芯を通すことができたと考える。よりよい集団を目指し、「本気」で取り組む児童を育成するための手だてとして、「学級の支持的風土を培う」「集団の一員としての自覚をもたせる」「一人一人の充足感を高める」の３点を設定し、視点を明確にして指導を行ってきた。そして、各学校の実態を把握するに当たって、児童の学級活動に関する意識調査を行ったことで、具体的な数値で実態を考察することができ、研究の方向性を整えることができた。

12 月に事後調査として再度、児童の学級活動に関する意識調査を行い、その結果を比較した。

また、振り返りカードや児童の様子などから教師が見取ったことを踏まえ、成果と課題を以下のようにまとめた。

１　研究の成果

よりよい集団を目指し「本気」で取り組む児童を育成するに当たり、「学級の支持的風土を培う」「集団の一員としての自覚をもたせる」「一人一人の充足感を高める」の三つの視点を設定し、具体的な手だてをとったことは有効であった。

（１）　自己の役割を自覚し、自分の意見を活発に言える児童が増えた。

（２）　提案理由に沿って考えたり発言したりする児童が増え、学級目標を大切にし、目標に近付こうとする児童が増えた。

（３）　安心して互いの意見を言い合っている姿が見られた。

（４）　振り返りで自他のよさに気付いたり、活動の改善点を意識し、次への意欲につなげたりしている児童が増えた。

２　研究の課題

研究仮説に迫るための具体的な手だてとしての三つの視点に沿って検証を行ってきたが、それぞれの視点における手だてについての考察を更に深めていく必要がある。

（１）　より「当事者意識」を高めるためには、議題の質を高める必要がある。そのために児童自身の「学級の問題を見付ける力」を育てる手だてについて、今後考えていきたい。

（２）　話合い活動を活発にするための事前の計画委員への指導の在り方を深めていきたい。

（３）　22 個の手だてに焦点を当てて検証を行ってきたが、より一般化していくことが必要である。

平成２３年度　教育研究員名簿

小　学　校・特　別　活　動　部　会

地区	学校名	職名	氏名
千代田区	千代田区立千代田小学校	主任教諭	白波瀬　奈那子
江東区	江東区立扇橋小学校	主任教諭	首藤　涼一郎
目黒区	目黒区立田道小学校	教　　諭	角田　恒一
板橋区	板橋区立板橋第八小学校	主任教諭	柏　範行
立川市	立川市立西砂小学校	主幹教諭	桑原　暢子
三鷹市	三鷹市立第三小学校	主任教諭	○並木　文
三鷹市	三鷹市立第六小学校	主任教諭	◎高山　夏樹
町田市	町田市立小山田小学校	教　　諭	山野　奈央子

◎世話人　○副世話人

【担　当】

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
統括指導主事　　小島　みつる

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
指導主事　　神谷　なおみ

平成23年度
教育研究員研究報告書

小学校　特別活動

東京都教育委員会印刷物登録
平成２３年度第１８１号
平成２４年　３月

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８３６
印 刷 会 社　有限会社　シーダー企画